

肝疾患相談員の役割・機能

名古屋市立大学病院 肝疾患相談室
近藤優子

肝疾患相談室開設までのながれ

2008年

- 4月 愛知県より「肝疾患診療連携拠点病院」指定
肝疾患センター、肝疾患相談室設置規程作成
- 5月 肝疾患相談室整備・専門医との話あい
- 6月 相談等の流れ(フロー図)作成
「肝疾患支援相談票」作成
- 7月 肝疾患相談室開設
「一般相談」専任相談員(看護師)2名が電話および面
談にて対応
月～金 9:00～16:00 (12:00～13:00)除く
「専門相談」必要に応じて肝専門医が対応(予約制)

肝疾患相談室開設後の取り組み

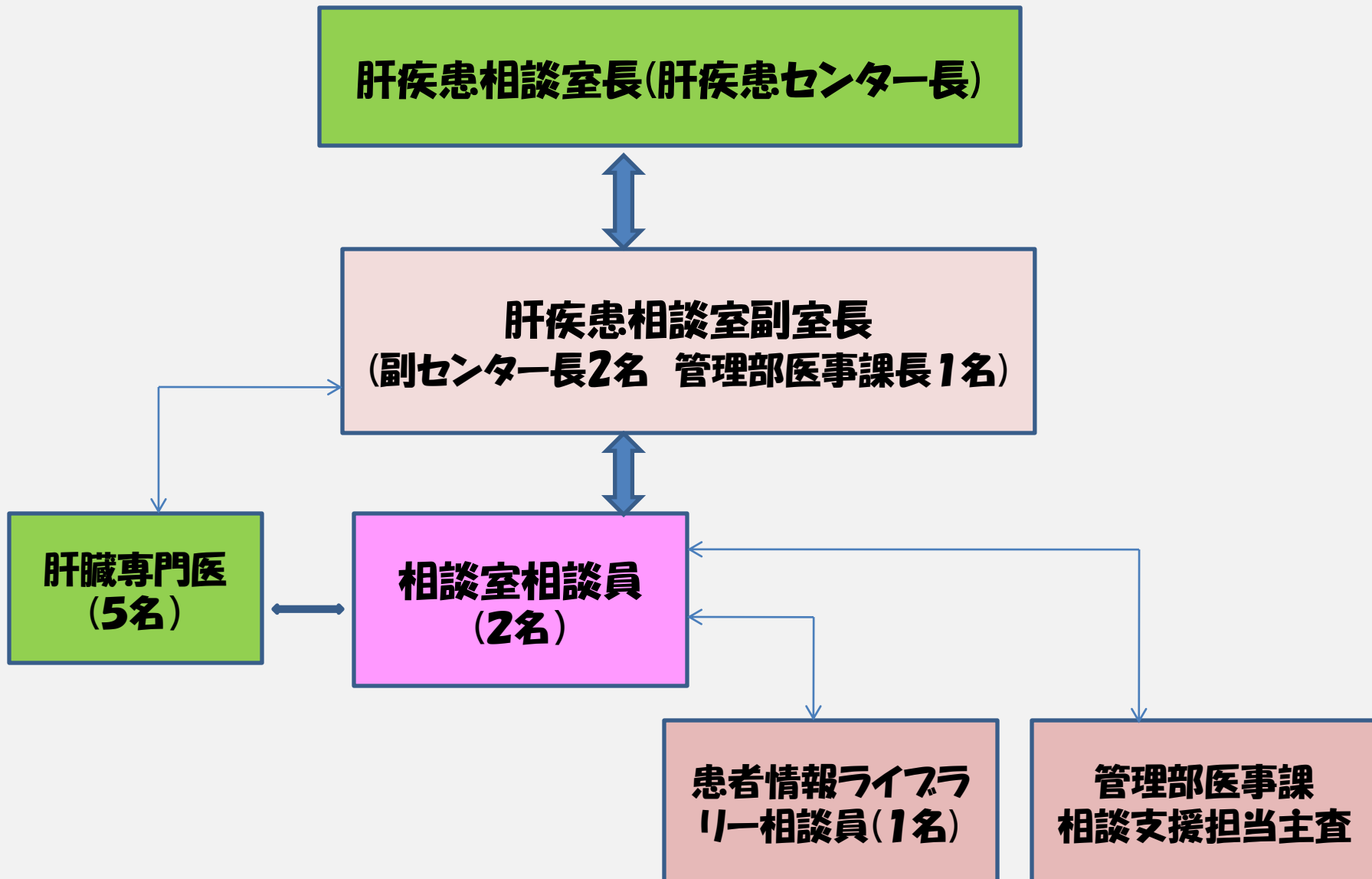
2009年

- 11月 拠点病院主催の研修会参加(コメディカル対象)
- 12月 肝炎・免疫研究センター看護師研修会
- 2月 患者情報ライフライナーセミナー (病院主催)
- ※ オープンカレッジ受講

2010年

- 4月 愛知県「肝疾患診療連携拠点病院」4病院へ
- 6月 新聞取材
- 7月 「IL28B」遺伝子検査 先進医療認可
→8月1日から保険との併用可 費用22,000円
- 8月 地域連携パス運用開始(パス会議2回開催)
「肝疾患支援相談票」記録システム開発
- 10月 肝疾患センターホームページ 開設

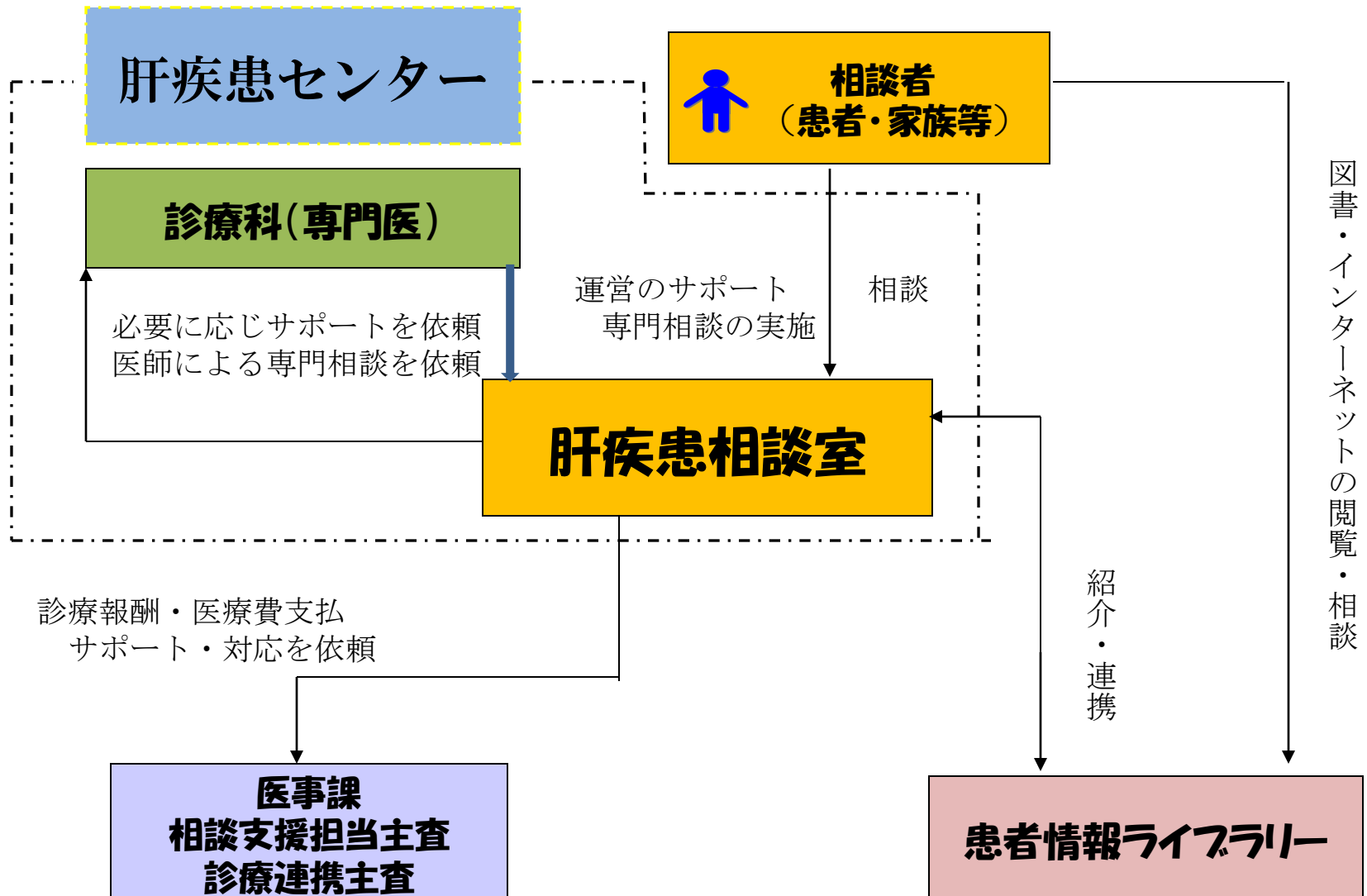
肝疾患相談室 組織図



相談のながれ

1. 電話や面談で寄せられる相談は専任の相談員が一般相談として対応する
2. 相談員が判断が困難な事例については専門医にサポートを依頼し、助言を受け患者に回答する
3. 専門相談が必要と判断した場合は専門医に依頼する(予約制)
4. 一般相談、専門相談の内容は「肝疾患支援相談票」に記載する
5. 相談は診療行為ではないため、当院の患者であってもカルテへの記載は行わない

相談等のながれ(フロー図)



患者情報ライブラリー

各種パンフレット



パソコン3台設置



医療従事者研修会

古くて新しいB型肝炎は今？



知って治そうC型肝炎



相談の実際

●相談延件数

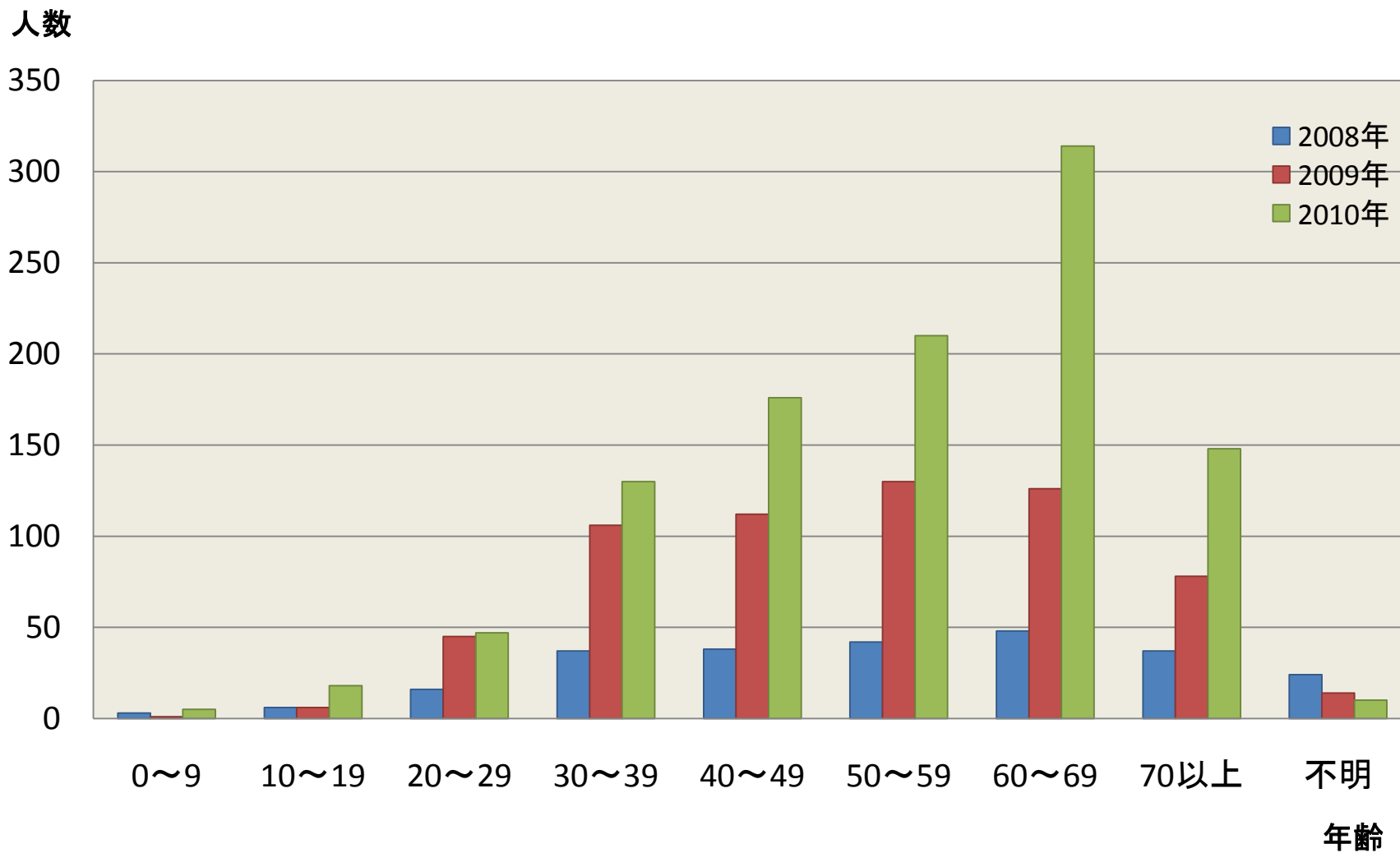
2008年(7月～3月) 9ヶ月分	464件
2009年(4月～3月)	1288件
2010年(4月～2月) 11ヶ月分	2076件

●相談者のカテゴリー : 約8割が本人からの相談

●性別 : 男女比は6:4と男性のほうが多い

●対応方法 : 開設当初は電話相談が多く 2年目以降は面談による相談が増えている

年代別



どんな相談が多い？

2008年7月～2009年3月

1. どの病院に受診したらよいか
2. 肝炎ウイルス検査を受けたほうがよいか
3. 医療費について(B・C医療給付、高額医療費)

※フィブリノゲン製剤、第IX因子製剤使用病院の公表をうけて
輸血・血液製剤投与の問い合わせも目立っていた。

どんな相談が多い？

2009年4月～2010年3月

1. 治療について (IFN治療)
2. 医療費について (B・C医療給付、高額療養費)
3. 肝炎ウイルス検査を受けたほうがよいか

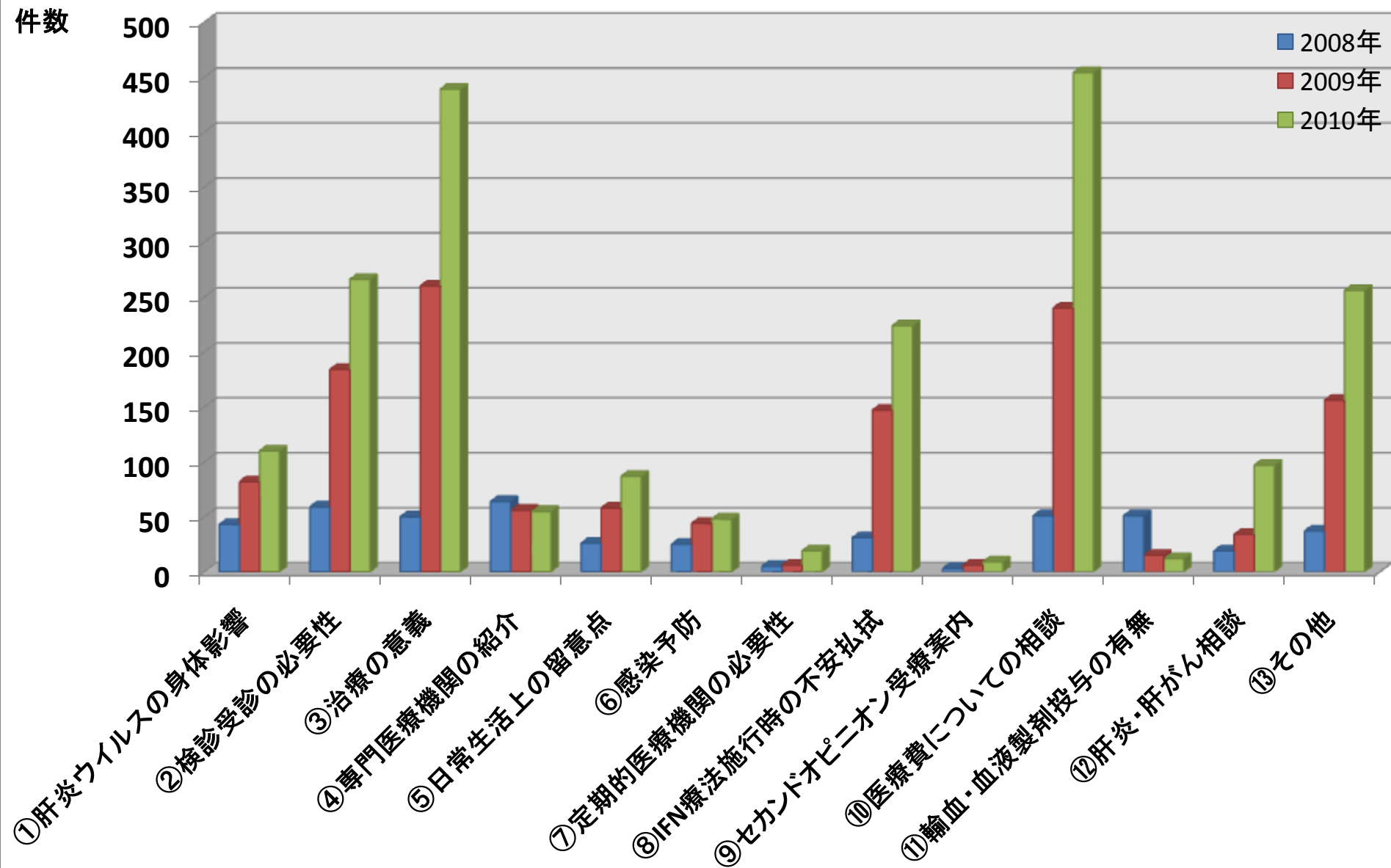
どんな相談が多い？

2010年4月～2011年1月

1. 医療費について（核酸アナログ助成）
2. 治療について
3. 検診受診の必要性について（※遺伝子検査）

※2009年9月、米科学誌「ネイチャー・ジェネティクス」に遺伝子多型による治療効果予測発表後、質問が急増

相談内容別



専門医療機関について

大学病院まで毎週通院するのはつらい。IFN注射は家の近くの病院で実施したい。

娘が幼少時に手術をした。保健所で検査をしたところC型肝炎と指摘。どうしたらよいか。

治療・副作用について

遺伝子検査の結果効きやすいタイプだった。それでもまだ決心がつかない。

IFN治療中。気分が落ち込み、周りの人にうまく気持ちが伝えられない。

バラクルード内服をすすめられたが耐性がでるのが心配。

感染予防

交際している人がいる。自分がB型肝炎であることは伝えた。感染予防について教えてほしい。

生活指導

家族が肝性脳症で入院中。そろそろ退院する予定。肝硬変の食事について知りたい。

医療費について

B型慢性肝炎。1回 / 3ヶ月通院。毎回5～6千円支払っている。経済的に負担。

その他

肝硬変・肝がんの治療についての相談も増えてきている。

肝疾患相談室



電話相談



専門医とのミーティング



面談風景



相談員(看護師)の役割

1. B型・C型肝炎をはじめ肝疾患すべての病態及び最新の治療と看護の知識が必要
2. 患者・家族の思いを受け止め、納得のいく治療を受けられるよう支援すること
3. インターフェロン治療、抗ウイルス剤治療について副作用をはじめ、家庭や仕事の都合で決断できない患者への支援も重要
4. 相談者からのポイントをおさえた情報収集と判断力
5. 毎年変更されるガイドラインや医療助成制度を熟読し、適宜適切に情報を提供していく



肝炎ウイルス検査の推奨と早期治療の促進

相談室充実にむけての課題 ～効果的に機能させるために～

1. 相談体制の充実

多岐にわたる相談に対応するためには**専任の相談員の配置**が必要

2. 専門医との連携

治療に関する専門的な内容の相談も多く、**専門医との連携体制**を整えることは不可欠

3. 相談員のキャリアアップ

最新の治療や相談技能習得にむけての自己啓発、研修会への参加が重要